

# 双松会会報

第45号「双松会」通巻49号「松高北高同窓会報」通巻49号

発行 松江市奥谷町164番地 双松会事務局 TEL: 0852-21-4888  
島根県立松江北高等学校内 FAX: 0852-21-4977  
印刷 有限会社高浜印刷 TEL: 0852-36-9100

青春グラフィティー

Vol.22

普通科33期・理数科12期

向井 裕子

## 思い出起こし

「北高はたくさんさんの思い出を重ねたところです。寄る年波、忘れていくこともあるでしょう。この同窓会が、思い出起こしの場です。」

——これは還暦記念のクラス同窓会に寄せられた、担任の先生の「一言メッセージ」です。42年前同じ教室に机を並べた私たち生徒も、会の出欠に関わらず「一言」を準備しました。集まったメッセージをまとめ、一枚のシート。そこにずらりと並ぶ懐かしい名前と自由な一言は、同級生たちの新しい「今」を伝えていきます。

令和六年一月、会場に備えられる六台の円卓それぞれに、卒業アルバムとこの「一言シート」が置かれることになりました。

その前年、令和五年のことです。

卯年・辰年生まれの私たちは、春から次々と60歳の誕生日を迎えています。けれども、多くのクラスメートとは長年会うこともなく、連絡をとる機会もありません。

コロナの行動制限が解かれ、街には活気が戻っています。松

江では土曜夜市がおよそ30年ぶりに復活して大変な賑わいを見せていました。

そんな中、他のクラスが夏に同窓会を開いたとの話が聞こえてきました。

「夏に行けなかった人たちは、その後、ミニ同窓会をしたんだって。年明けにもまた集まるらしいよ。」

——何だか盛り上がりすぎて、ずいぶん楽しそうです。数年ごとに集まっているクラスもあると分かりました。

自分たちもクラスで連絡を取り合ってみようか——。そんな流れになってきました。

こうした学年のつながりこそが、クラス同窓会のスタートでした。

開催が決まると、そこから進んでいく波の力は大きなものでした。アイディアを出し合い、ああでもないこうでもないと言っているのは、まるで高校時代、体育祭の仮装行列に向けて奮闘した日々ようです。分担して衣装を縫い、背景の幕を作ったあの頃——。ダンスの練習場所を探してあちこちさま

よったこともありました。同時進行のデコレーション制作を見に行っては盛り上がりつつあったことも思い出されます。

あれから42年、住んでいる場所は様々ですが連絡を取り合い、力を合わせました。

リモート同窓会コーナーのテキストは、当日参加できないメンバーの大きな協力がありました。

ソーダ節のネタは、県外在住コンビで楽しみながら作ったようです。還暦に因んだ「赤いプレゼント交換」の担当からは、プレゼント選び代行の工夫が出ます。会の冒頭に流すVTRを制作するメンバーは、帰省時、美しい故郷の風景を撮影していました。

また担任の先生ですが、非常にお元気で、「準備段階から面白おかしく楽しんで」「同窓会は皆でわあわあ騒げるように」と適時アドバイスをくださいます。先生のメッセージを共有するうち、「ワイワイガヤガヤ」がクラス同窓会の合言葉のようになっていきました。

さて当日です。会場には懐かしい顔、顔、顔！

開会に先立ち、亡き友に黙祷を捧げます。

続いて上映されたVTRには誰もが釘付けです。同級生の人から提供された、42年前の仮装行列の貴重な映像も入っています。乾杯の後は即、ワイワイ

ガヤガヤ。皆、一瞬で時を飛び越え、会場のあちこちで話に花を咲かせています。すっかり忘れていたことを思い出したり、昔の謎が解けて大笑いしたり。

リモートコーナーではスクリーンに県外や海外の仲間が現れ、出雲弁バージョンのソーダ節は「学食のカレーラーメン」「学校帰りのたつやのマヨパン」そして先生ネタで盛り上がりま

す。プレゼント交換では、美味しい赤ワインや赤唐辛子手羽、宍道湖の夕日写真集などが、還暦の「赤い」お土産になっていました。

また今回、北高にお願いして校歌のCDをお借りしました。その際、母校の現在の様子を聞かせていただくことができました。この場を借りまして、改めて御礼申し上げます。

たくさんさんの思い出を掘り起こし、語り合い、笑いあって楽しんで日でした。その後は小さな集まりや、クラスの枠を越えてのランチ会があり、顔を合わせては、これからの繋がりを大切にしていきたいねと話しています。

同窓会の日、円卓に置かれていた卒業アルバム。クラスのページの恩師の言葉は「この時の自分の顔を大切に。仲間の顔を忘れずに」

——そのメッセージを新たな気持ちで受け取った、かけがえない一日になりました。(了)





一年を振り返って

会長 櫻井 誠己

高20期

双松会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本会に対しご支援、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。昨年の7月9日の幹事総会におきまして伝統ある双松会の会長を仰せつかりましてから早いもので一年が経過しました。それまでの三年余りは、コロナ禍において様々な制約がある状態が続きました。学校における授業、部活なども影響を受け、また、双松会の活動も開催が中止されたことが多かったかと思えます。昨年の5月から規制が緩和され様々な行事が行われるようになり平常の日常生活が戻って参りました。その様な中でこの一年間でありました。会長として各地の双松会に出席させていただきました。東京、近畿の総会では同期生の懐かしい顔を拝見することができました。(広島は欠席) また近くは米子の総会ではご縁のある方々にもお会いできました。参加されている皆様それぞれ、母校への思いを持ちながらそれぞれの地で活躍されている姿を拝見させていただき、双松会の絆の素晴らしさを感じたところであります。卒業式や入学式に出席させて

いただきました。北高を卒業以来、何十年ぶり(56年)での卒業式でありました。卒業式の前日には双松会への入会式で普通科185名、理数科39名の卒業生を会員として迎えることになりました。卒業式の在校生が卒業生におくる送辞、それに答えて卒業生が在校生への答辞の素晴らしいには感動を覚えずにはいられませんでした。昔からの卒業式の風景、感動とはこの様なことだと今更ながら思いました。そして、現代の高校生の表現力の高さにも感服した次第であります。そして入学式でも多くの発見をさせていただきました。両親で参加されている姿が多いことには時代の流れの様な感じを受けるとともに我が子の成長を見守るの親心を感じたところです。ピカピカの一年生の成長を楽しみにしながら入学式に参加させていただきました。島根県教育委員会の発表(2月14日)によりますと県立高校の全日制の出願倍率は0.83倍となっており、松江北(普通)0.91倍・同(理数)1.00倍であり、定員割れの時代となりました。

明治9(1876)年3月に県立松江中学校として創立されてから再来年、令和8(2026)年に本校は、150周年を迎えます。いよいよ準備に取り掛かるよう準備委員会、そして実行委員会を立ち上げていくこととなります。関係各位の皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い致します次第です。



学校長あいさつ

校長 伊藤 康子

双松会の皆様方には日頃から母校に対し、多大なるご支援とご協力をいただいております。今春、校長として着任いたしました。着任してから、双松会の櫻井会長様、景山幹事長様をはじめ、双松会の関係の皆様には温かくお声がけいただき、ご支援をお約束いただいております。心強く思っております。

双松会の皆様とお話しするときに、必ず話題に挙がる「松」。正面玄関の庭に悠然と屹立している「お手植えの松」の由来、第1グラウンドの小高い丘に厳然と植わっている「双松」、病気にかかり苦渋の決断で切り倒し、その子孫を植え替えた話や、DNA鑑定をした話など、本当に皆様が愛情こめて話をされる様子に、「愛校心」の具現を見ている気がします。また、

松に限らず、川津校舎の話、赤山校舎への引越しの話、その時の提灯行列の話、高校時代の話をされるときは皆様は、まるで時が戻って、高校生になったかのような若い気をまとうわけて本当ににぎやかに、楽しそうに話されるので、聞いているこちらにも楽しくなってきました。これも北高の大きな魅力であり、今の北高を支える力だ、と感じ入っています。今年度は、2年後の創立150周年への、本格的な準備着手の年です。伝統ある本校にふさわしい、皆様の愛校心を象徴するような記念式典を、と身の引き締まる思いでおります。北高図書館で「貴重書」となっております1742ページに亘るあの『松江北高等学校百年史』を特別に校長室に持ち出させてもらい、ページをめくって、

松江北の精神(448ページには赤山精神とあります)の歴史を紐解き、改めて松江北の層の厚さ、深さに感服しています。さて、現役北高生ですが、松江北の校訓は、松江中学時代の「質実剛健」が柱としてあり、その後「文武両道」が並び、現在は、校歌の歌詞から「世界の人のたれ」がスクールポリシーになつていきます。この「世界の人のたれ」を合言葉に、生徒たちは自分のやりたいこと、やるべきことに向かって全力で努力をしています。今年の県総体は、総合順位は上位ではなかったものの、インターハイ出場を決めたチーム、個人がいます。また、全国大会に出場する文化部は、枚挙にいとまがありません。生徒たちはみな自分の可能性を掘り、学校の教育課程以外にもいろいろなことにチャレンジし、しっかりと結果を残しています。これから将来を生きる生徒たちが、北高で着実に力を養い社会で活躍する素地を身に付けつつある、と確信しています。そして将来、双松会の一員として、松江北を支えてくれると、大きく期待もしています。引き続き様々な面で生徒たちにご支援いただければ幸いです。最後にになりましたが、双松会の皆様方の益々のご活躍とご多幸を祈念いたしまして、挨拶いたします。



事務局だより

今春6年ぶりに母校である北高に三度目の勤務させていただく事になりました。あわせて双松会事務局長も務めさせていただきますことになりました。よろしくお願いたします。

前回勤務の時と同様に、自宅から堀川沿いを歩いて北高に通勤しております。4月は堀端の桜の美しさに目を奪われ、5月は赤山に生える竹の子や堀端のナンジャモンジャ(ヒトツバタゴ)を懐かしく眺めました。季節は移ろい、今は堀川でアカミミガメが甲羅干しをする姿を眺めつつ通勤しております。

また、通勤の行き帰りにすれ違ふ人の多くが顔なじみであるという事もうれしく思っております。中でも、かつて北高で勤務させていただいた時に生徒だったみなさんが立派な社会人となり、道ですれ違ふ際に声をかけてくれる瞬間は、感慨一入であり、教師という職を選んで本当に良かったと痛感しております。また同時に、母校で勤務させていただいている事に感謝しております。

さて、明治9年に創立された島根県立松江北高等学校は、二年後の令和8年に創立150周年を迎えます。現在、150周年準備委員会が立ち上げられ、双松会の役員の方や、北高に勤務させていただいている卒業生である教職員が中心となって150周年記念事業や式典について検討を進めているところであります。創立から150周年を迎えた

公立高校は全国でも20校弱しかなく、北高の歴史がいかに古いものであるかということを感じております。そうした意味で、この度の150周年関連の事業は通常の10年ごとを実施されている周年事業の規模に留まらず、昭和53年に行われた100周年記念事業に勝るとも劣らない、意義深いものにならなければなりません。準備委員会のメンバーは、一丸となり、気持ちを込めて事業の策定に取り組んでおります。

150周年記念事業や式典につきましては、準備委員会のメンバーを中心に策定に取り組み、令和6年度末には概要を決定したいと考えております。この概要策定にあたりまして、場合によっては広く双松会会員のみならず、ご意見をうかがう機会があるかもしれません。そのような機会がありましたら、ぜひ積極的にご意見を賜りますようお願い申し上げます。どのような事を行うにせよ、各所で活躍されている双松会会員のみならず、ご助力なくしては、150周年記念事業は成り立ちません。今後の準備委員会の動きや、概要決定後に立ち上げられる予定の実行委員会の動きに注目いただきますと共に、より一層のご支援ご助力を双松会に賜りますようお願い申し上げます。

寄付金のお礼(昨年の7月以降)

- 在京松高7期同期生 7万円
松高8期同窓会 25万2554円
松江高校12期生ゴルフ同好会 36会有志 3万3563円
友よ松江北高21期同窓会 3万円
第33期同窓会有志一同 27万1906円

令和6年卒(普通科75期・理数科54期)会計より 165円 (敬称略)

令和6年度双松会幹事総会報告

7月6日(土)サンラボーむらくもにて「令和6年度双松会幹事総会」が開催された。約60名の幹事が出席し、14時半から約1時間に及び審議した結果、全て承認された。

【議題】

- 1. 令和5年度会務報告
2. 令和5年度決算報告
3. 監査報告
4. 令和6年度会務計画(案)
5. 令和6年度会計予算(案)
6. 令和6年度双松会幹事(案)
7. 150周年記念事業(案)

【報告】

- 1. 名簿について
2. 会報について
3. 双松について
4. H P について

以上の方々より、寄付金を頂いております。ご披露に合わせ、て厚く御礼申し上げます。

令和6年度双松会役員・常任幹事

- 顧問 松本 幹彦(高1)
会長 櫻井 誠己(高20)
副会長 金平 憲(高16)
会長補佐 伊藤 康子(北高校長 新)
幹事 勝部 昌幸(高21)
副幹事 河原 一朗(高23)
幹事 泉 雄二郎(高26)
副幹事 小山 理久(高28)
幹事 景山 直観(高31)
副幹事 糸川 孝一(高31)
幹事 石原俊太郎(高35)
副幹事 西村 康(高20)
幹事 杉原 伸治(高30)

令和5年度 双松会会計決算書

Table with financial data for the 5th year, including income and expense statements with columns for budget, actual, and variance.

監査報告

令和5年度双松会会計について、帳簿・証書書類等を監査した結果、適切に処理されていることを認めます。

監査人: 西村 康, 杉原 伸治

令和6年度 双松会会計予算書(案)

Table with financial data for the 6th year budget proposal, including income and expense statements with columns for budget, previous year, and variance.

事務局長

武藤 立樹(北高教頭 新)

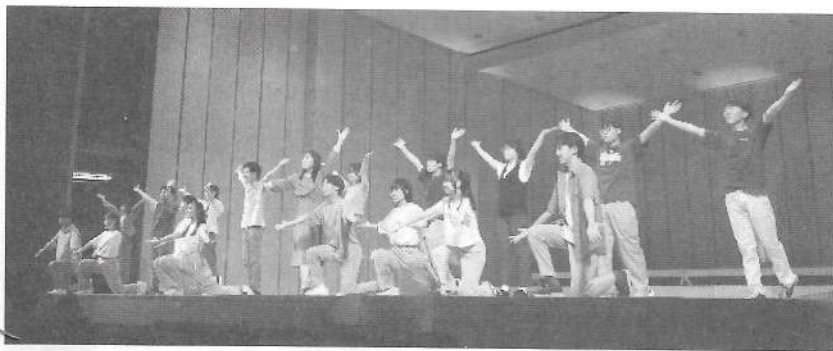
常任幹事

- 吉金 隆(高19)
松田 龍志(高21)
西尾 俊也(高22)
玄行 登(高23)
永井 隆(高26)
皆美 佳邦(高27)
長崎 隆志(高28)
長岡 悦子(高29)
林原 幹治(高29)
鶴岡 順(高29)
藤井 徹(高29)
貴谷 紘行(高31)
石倉 弘文(高31)
馬庭 伸行(高34)
金井 寿彦(高34)
細木 明美(高35)
田邊 真司(高36)
高浜 澄子(高36)
岩本 雅之(高38)
伊藤 尚子(高40)
木村俊一郎(高42)
武藤 立樹(高42)
裏辻 雅教(高43)
野津 良幸(高47)
肥後 淳平(高47)
田部長右衛門(高49)
並河 元(高49)



特集 部活動紹介(合唱部)

本校合唱部は、現在三学年合わせて二十三名で活動しています。六月に開催した第四十六回定期演奏会では、合唱曲ステージとミュージカルナンバーステージを企画し、精一杯演奏することができました。特に、前回の演奏会から歌っている「風に寄せて」そ



第46回定期演奏会「ミュージカルナンバーステージ」の様子

の「」は、北高合唱部を象徴するような楽曲です。ピアノ前奏が始まるとすぐに、合唱部の伝統と今の部員たちが融合していくような感覚を感じます。そして清々しくさわやかな歌声がホールを包み込んでいきます。これからもこの名曲を歌い続けていきたいと考えています。来年も六月に定期演奏会を開催します。音楽四部(合唱・弦楽・吹奏楽・箏曲)の生徒たちが一生懸命演奏しますので、ぜひ島根県民会館までお越しただけると嬉しいですよ。お待ちしております。

さて、近年全国的に部活動として合唱をする子どもたちの数が減ってきているという統計結果が出ています。それは島根県でも例外ではありません。合唱部がある学校も少なくなり、三十名を超えている合唱部は、高等学校では見なくなりました。そこで、松江市の中学校・高等学校の合唱部が合同合唱団として集まり、練習と交流を図り、一つの音楽を作りだしていく取り組みを始めています。「松江市中高合同合唱団」です。現在



第46回定期演奏会「合唱曲ステージ」の様子

七校(松江一・松江二・松江四・島大附属・松江北・松江南・松江東)で活動し、六月に行われた島根県合唱祭では一〇〇名の人数で演奏しました。島根県民会館大ホールに響き渡る歌声で、大人数の合唱の良さを改めて感じることができました。これからも合唱の楽しさと大人数で声を合わせていく感動を伝え続けていければと思います。子どもたちにずっと歌い続けてほしいと願って実現した企画です。合唱を心から楽しんでほ



昨年度、第76回全日本合唱コンクール全国大会にて

しいと思います。そして、八月になるとコンクールシーズンです。北高合唱部は、シーズンになるとコンクールメンバー(今年は六名)が加わってくれます。今年には計二十九名でコンクールに参加します。二大コンクールである「NHK全国学校音楽コンクール」と「全日本合唱コンクール」、どちらも全国大会出場を目指し、日々練習しています。一昨年、十一年ぶりに憧れの全日本合唱コンクール全国大会に出場し、昨

年も二年連続で全国大会のステージで歌うことができました。「もう一度あの舞台に立ちたい。全国大会の舞台で歌いたい。」が自然に合言葉になったような気がします。今年挑戦する自由曲は「ひとめぐり」混声合唱とピアノのための「」です。生きる希望を前向きに、明るく伸びやかに北高らしく表現したいと思っています。これからも松江北高、そして松江北高校合唱部をどうかよろしく願っています。



双松会地区だより

東京双松会

東京双松会 事務局長 森岡 正士(高31期)

昨年4月に東京双松会の事務局長になり、初仕事として4年ぶりとなる第68回総会を品川プリンスホテルで開催しました。プランクが空いていたこともあり準備の過程では色々試行錯誤する局面もありましたが、皆様のご協力を得て無事開催することができました。ご参加・ご支援をして頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

今年の第69回総会は11月9日(土)12時00分から内幸町の日本プレスセンター10Fレストラン・アラスカにて開催する予定です。講師には(株)山陰合同銀行の山崎徹頭取(高28期、S52年卒)にご登壇頂き「山陰の新たな観光ビジネス」というタイトルでご講演して頂き、昨年にも増して多くの皆様のご来場をお待ちしています。

先日NHKによる「2025年度後期の朝ドラで小泉八雲の妻セツの人生を『ばけげ』というタイトルで制作する」プレスリリースを当日(6/12)に知り、翌日(6/13)に東京双松会のメンバーにメールでシェアしました。今後も「松江／島根に関する明るく情報」や、「松江北高の現役学生の活躍ぶり」に加えて、「東京双松会員の近況報告」を東京双松

会の皆さんに発信し、年に一度の総会と総会の間でも身近に感じてもらえる東京双松会を目指していきます。

お問い合わせ先

東京双松会事務局 〒102-0008 千代田区二番町1-3

「中央印刷事務器(株)内」

TEL 03-3265-4858

https://

tkosho.

qwc.jp/

index.html

東京双松会ホームページ



近畿双松会

近畿双松会 事務局長 六道 弘志(高31期)

近畿双松会は令和5年度に設立65周年を迎え、その記念となる総会では、講師として小泉凡氏(小泉八雲記念館館長、島根県立大学短期大学部名誉教授)をお招きし、「小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)、今を生きる。」というテーマでご講演いただきました。年1回刊の会報も、今回は65周年記念版とし、前年度より大幅に頁数を増やして発行しました。昨年度は役員人事に関しても、9年間会長を務められた松本耕司会長(高16期)が退任されて常任顧問となり、徳田完二・新会長(高24期)に交代するなどの異動がありました。

今年の総会は11月30日(土)に開催予定です。この活動を将来世代に引継いでいけるよう、中堅・若手会員の参加拡大に

引き続き取り組んでまいります。これからも情報を逐次、ホームページ、メールマガジン、LINE@で発信していきますので、ご注目をお願いします。メールマガジン、LINE@が未登録の方はぜひ受信手続きをお願いします。(一方だけでも可)

お問い合わせ先

専用アドレス: master@kinki-soushoukai.org

近畿双松会ホームページ: http://www.kinki-soushoukai.org

QRからもアクセスください。

「メールマガジン」登録

QR、ホームページ、専用アドレスからメールアドレスを登録ください。専用アドレス: kinkisoushoukai-net@kinki-soushoukai.org

「LINE@」登録

QRからお名前 卒業期を登録ください。



近畿双松会ホームページ登録



「メールマガジン」登録

米子双松会

米子双松会 事務局長 中西 秀夫(高15期)

2月4日、双松会長・幹事長・松江北高校長を迎えて総

会を開催。本会副会長宮本久子氏の前会の講演「山陰初の民放(現BSS山陰放送)はパチンコ屋の2階から生まれた」の話したりない、聴きたりないとの声を受けて今会も「BSS山陰放送パート2」として楽しく拝聴した。

納涼会は、7月27日、国際ファミリープラザ9階の「chou・chou」にてフレンチを食し開催。軽音楽の演奏も好評であった。ゴルフ部会は毎月のコンペを大山周辺ゴルフ場で開催。

旅行部会は秋に島根県奥出雲町の国指定重要文化財「櫻井家住宅」(TBSドラマのVIVANTで放送され話題となった。14代目当主は現双松会長櫻井誠己氏)を計画。米子双松会も高齢化が進んでおり、各種行事への参加も減少しております。中堅・若手会員の参加拡大で、ますます楽しい米子双松会になるよう、米子市周辺にお住まい、勤務されている方々の入会をお待ちしています。

連絡先 米子双松会事務局 中西秀夫 〒689-1340 米子市淀江町淀江771 TEL&FAX 085915612315

広島双松会

広島双松会 副幹事長 渡部 賢(高36期)

令和5年度は、母校、双松会本部、島根県からご来賓を

お迎えし、広島市中心部にあるメルパルク広島で総会・懇親会を開催いたしました。久しぶりの開催ということもあり、コロナ禍前に比べると幾分寂しいご参加状況でしたが、30余名の同窓生が久しぶりに再会し、楽しい時間を過ごすことができました。また、3月末には宮島志和カントリー倶楽部(宮島の名を冠してはいませんが、東広島市の山中のゴルフ場です)にて、ゴルフコンペを開催。こちらは14名が参加し、覇を競いました。令和6年度は、より多くの方にご参加いただけるよう、幹事団一同意気込み、次のとおり行事・イベントを企画しております。本会報をご覧いただいた広島在住の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

行事予定 ①納涼親睦会 日時:7月12日(金) 場所:そごう広島店本館 「マダムシエンロン」 ②ゴルフコンペ 日時:9月7日(土) 場所:宮島志和カントリー倶楽部 ③総会・懇親会 日時:11月9日(土) 場所:TKPガーデンシティ PREMIUM広島駅北口

お問い合わせ先: 広島双松会副幹事長 渡部 賢 〒733-0876 広島市西区高須台3-6-10 TEL&FAX 082-1273-8204 e-mail: rskpapa2002@sky-megaeg.ne.jp



通信制双松会

通信制双松会 会長 伊東 健治

第5回総会報告

昨年10月15日松江市のサンラポーむらくもで開催し役員の改選をしました。新役員の方を紹介しします。

役員表: 氏名, 卒業年, 出身. 顧問: 坂本育穂 (S42) 松江市, 野津裕 (S43) 松江市, 伊東健治 (S55) 出雲市, 和田忠 (S45) 松江市, 天喰要治 (S54) 出雲市, 南波達夫 (S45) 松江市, 岩浅利正 (S58) 出雲市, 高木恵美子 (S45) 松江市, 竹下孝子 (H1) 松江市

第6回通信制双松会総会案内

日時 令和6年10月20日 14時より

場所 松江市殿町369 サンラポーむらくも

会費 7000円

参加申込は、住所、氏名、電話番号、卒業年を明記して、ハガキで9月30日までに左記に申し込んで下さい。多数のご参加をお待ちしております。

〒69910622 出雲市斐川町名島2-1 伊東 健治 宛 (連絡先) 09071368190

北高生の活躍

島根県高等学校 総合体育大会

男女総合12位 (男子総合16位)(女子総合6位)

5月下旬から6月上旬にかけて第62回島根県高等学校総合体育大会が行われました。各部熱戦を繰り広げた結果、男女総合(Aグループ)第12位となりました。各部それぞれ目標に向かい、全力を尽くしました。7月下旬から北部九州で開催される全国高校総体(インターハイ)、またブロック地区大会(中国大会)に出場するチーム・選手を紹介しします。

全国大会

陸上競技

女子ボート

3年 藤田龍之介

3年 山野内聡香 有本真結子 2年 荒河万優子 吉原 れい 原田緋那子

登山部

女子団体

3年 山本 珠緒 奥野 真汎 1年 江木 千尋 坪倉 菜月

中国大会

女子卓球部

3年 水津 陽 中田 歩 柳浦あずさ

陸上競技部

2年 牧野 桃子 福庭 笙子 渡辺 咲樹 勝部 友菜 近藤 美緒

男子ボート部

3年 藤田龍之介 石川 茜 角橋 侑斗

女子ボート部

2年 奥原 元気 藤井 晶文 金坂 拓磨 野村 一翔 佐藤麟太郎 細川 央登 本田 健太 足立 蒼依

女子ボート部

3年 有本真結子 山野内聡香 吉原 れい 荒河万優子 原田緋那子 中島 詠美

弓道部

3年 加藤 亜美 小西 里美 吉田 心春 池田 佳月 梶田 実優 中村 令佳

男子テニス部

3年 松本 翼 大國 成登 田中 啓介 原 俊輔 藤井 奏太

女子ソフトテニス部

3年 門脇 秋乃 齋藤かのん

女子バドミントン部

2年 兼井 心春 永瀬 美月 3年 石倉 光貴 築道 莉奈 白石 もか 佐々木里紗 小村 色織 田畑那南花 物部 優里

水泳部

3年 松浦 航希 青山 竜也 石井 康介 中井 梨華 高村 雄風

レスリング

1年 中井 梨華 3年 高村 雄風

文化部の活躍

県内予選を通過し、7月8月に岐阜で行われる全国高等学校総合文化祭に出場する部を紹介しします。

百人一首かるた部

3年 竹下 修汰 栗岡佑万子 春木柚菜子 西村 理沙 森脇 健弘 村川 律斗

囲碁部

1年 森脇 健弘 村川 律斗

将棋部

3年 笹野 里奈 市場 結衣 引野 粹蓮

写真部

3年 片岡 瑞彩

自然科学部

2年 宮本 光遙 3年 片岡 風

美術部

3年 細田 壹成

書道部

3年 松本 遥

放送部

3年 栗岡佑万子

箏曲部

3年 河上 穂香 角田 実咲 古浦 心菜 高梨 結衣 中村 七海 奥野 葉月 木戸 友夏

その他の全国大会 百人一首かるた部 全国高校選手権 団体戦

3年 杉原 大介 竹下 修汰 小塚 侑 栗岡佑万子 平塚 留奈 榎本 一花 春木柚菜子 西村 理沙 1年 西村 理沙 1年 山下虎太郎 森脇 健弘 村川 律斗



「世界の人たれ北高生！  
基金」及び近畿研修の  
活動報告

○世界の人たれ講演会

令和5年10月16日、東京大  
学未来ビジョン研究センター  
の高村ゆかり教授をお迎えし、  
「2050年 カーボンニュー  
トラルに向かう世界―『変化』  
の中の地域と企業―」という  
テーマでご講演いただきました。  
高村先生は北高普通科34  
期生で、北高を卒業後は京都  
大学法学部を卒業し、現在に  
至るまで国際法学・環境法学  
の専門家としてカーボン  
ニュートラルに向かう世界を  
牽引しておられます。

講演では、地球温暖化の現  
状や気候変動について具体的  
なデータが示されました。地  
球上で起こっている諸問題に  
より、今まで私たちが送って  
きた生活をこれからも持続し  
ていくことは今後極めて難し  
くなるであろうとのこととし  
ました。また、カーボンニュー  
トラルに向けた国際的な取り組  
みや、世界で掲げられている  
エネルギー政策における指標  
についても詳しい解説があり  
ました。

これらのことを踏まえ高村  
先生は、予想を上回る速さで  
大きく変化を続けている今の  
社会においては、この速い流

れにのまれることなく、自分  
自身の理想をもち、意志を  
持つて生きていくことが重要  
であることを強調されました。  
また、高校時代を大切に過ご  
して行ってほしいというお言  
葉もいただきました。

講演会を聞いた生徒たちは、  
地球温暖化や気候変動といっ  
た事柄が自分たちの生活に直  
接関係する重要な問題である  
ことや、世界が本気で動き始  
めているということ認識し  
ました。そして、この問題を  
自分たちのこととして捉え、  
これから自分たちは何をすべ  
きなのか、どのような未来に  
していきたいのかをイメージ  
しながら生きていきたいとい  
う思いを強めました。ご多忙  
な中、北高生に大切なメッ  
セージをくださった高村先生  
に厚く御礼申し上げます。

○グローバルスタディーズ  
プログラム

令和5年12月22日(金)〜26日  
(火)に実施したグローバルスタ  
ディーズプログラムには、1  
年生27名、2年生5名の計32  
名が参加し、本校起雲館を会  
場に5日間英語漬けの研修を  
行いました。令和5年度も、  
双松会の「世界の人たれ！北  
高生」基金より参加費の助成  
をいただいております。

研修では、日本の大学に通  
う計7名の外国人留学生と本

校生徒がグループを作り、  
ディスカッションやプレゼン  
テーションなどに取り組みま  
した。すべて英語でコミュニ  
ケーションを取ることに対し  
はじめは緊張した面持ちの生  
徒もいましたが、活動を重ね  
ていくにつれ、より前向きに、  
積極的に取り組む姿勢が見ら  
れました。この5日間を通し  
て、生徒は様々な文化につい  
て理解を深め、英語で発信す  
る力を大きく伸ばすことがで  
きた様に感じます。間違いが  
あっても受け入れ、どんな発  
言も認め合うというプログラ  
ムの理念も素晴らしいもので  
した。研修の集大成といえる  
最終発表は、5日間という短  
い研修の中でも生徒一人一人  
がたくさんの気づきを得たこ  
とや、自身を大きく成長させ  
られたことが感じられる素晴  
らしい内容でした。プログラ  
ムをやり切った生徒の顔には  
安堵と笑顔が溢れ、充実感が  
見て取れました。この研修で  
貴重な経験を得た生徒たち  
は、今後さらに世界に目を向  
け、より大きな舞台で活躍し  
ていきたいという気持ちで芽  
生えたのではないのでしょうか。  
今回も双松会ホームページを  
通じて、最終発表会をZOOM  
でリアルタイム配信し、日頃支  
援をいただいている双松会  
の方々実際に生徒が活動して  
いる姿をご覧いただく機会とな

りました。会員の皆様、あり  
がとうございました。



○普通科2年生 近畿研修報告

松江北高校の新しい魅力化の  
取り組みの一環として、令和4  
年度よりスタートした2年生普  
通科の近畿研修ですが、令和  
5年度は10月4〜6日の2泊  
3日の日程で実施しました。



3日間の日程のうち、初日  
の夜には、関西地区の大学へ  
進学した本校の卒業生の皆様  
にお世話になり、宿泊先のホ  
テルの会場にて在校生との交  
流会を実施しました。数グ  
ループにわかれ、座談会の形  
式で実施しましたが、現在の  
大学生活の様子や高校時代の  
学習への取り組みへのアドバ  
イスなどをいただきました。  
生徒たちは、近い将来の将  
来の自分をイメージしながら  
お話をすることができ、大変  
有意義な時間を過ごすことが  
できました。お世話になった  
先輩の皆様、大変感謝申し上  
げます。  
令和6年度以降も近畿研修  
を実施する予定ですので、卒  
業生の皆様にも引き続きお声  
がけさせていただきます。よ  
ろしくお願いいたします。



# 本年度の進路状況

進路部長 大峠 昌裕 (理科教23期)

旧教育課程での最後の大学入学共通テスト(令和7年度大学入学共通テスト)は移行措置として、旧課程対応の試験科目を高卒生は選ぶことができますが実施されました。志願者数は49万1914人と6年連続の減少となりました。志願者数の減少率は、高校卒業見込み者数の減少率とほぼ同じ減少率となっています。4年目となった共通テストの平均点は、駿台予備学校・ベネッセコーポレーションの推定で文系536点、理系559点(いずれも900点満点)と、文系が対前年+4点、理系が対前年+8点と文系・理系ともに平均点が上がりました。その要因は、各科目大幅な平均点ダウンが見られないなかで、受験者数の多い国語(+10.8)の平均点アップなどが大きく、平均点設定を50%にすると言われていた共通テストは平均点60%前後というセンタertest時代と変わらない状況になりました。高校卒業見込み者数が年々減少し、大学の入学定員が約68・4万人に対して受験人口が約64・1万人という単純倍率0.94倍であった令和6年度大学入試では、一般選抜の入学者が50%弱に弱対して学校推薦型や総合型選抜などの特別選抜での入学者が50%強と、特別選抜での募集定員が増加傾向にあります。この大学入学者数の内訳は、国立大学における一般選抜が約82%、特別選抜が約18%、公立大学に

おける一般選抜が約70%、特別選抜が約30%に対して、私立大学における一般選抜が約40%、特別選抜が約60%でした。少子化の影響とコロナ禍から見られた受験校の絞り込みの影響で、各大学が志願者数および入学者を確保したいという狙いがあると思われる。また、国の施策で国立大学および私立大学における理系人材強化と私立大学を対象とした構造転換が進められ、理系人材強化において入学定員増や理工学部の新設、理工学部での女子枠(推薦・総合型)設置などが見られます。今後数年は、大学および大学入試が変わり、多様化していくことが想定されます。

本校生徒の入試結果を振り返りますと、国立大学合学者数は現役生と既卒生を合わせて延べ156で、昨年からの減少が止まりました。松江市における学区制が廃止されたときの高校入試で入学した生徒の一期生であり、クラス数は7クラスで変わっていませんが卒業生数は前年と比べて40人少ない状況でした。新教育課程に変わる前の最後の共通テストであったため、安全志向に陥る受験生が増えること予想されていたが、平均点アップの影響もあり全国的に安全志向の傾向は見られませんでした。本校においても共通テストでベネッセコーポレーションと河合塾の2社のBラインなどから共通テストの持ち点を評価していますが、その中でマイナ評価であった者の逆転や秋の2次力の評価でマイナ評価であった者の

の逆転が見られ、大学受験でよく耳にする「最後まで伸びる」という言葉を体現した生徒がいました。具体的な合格校は、いわゆる難関10大学(旧帝国大7大学+一橋・東京工業・神戸)の合格者数は22と昨年と同じ数でしたが、東京大学は文Iへの1名でしたが、久しぶりの文系への合格であり1年次から普通科で学び、毎日朝6時半には登校して学習する生活習慣を継続した努力の賜物でした。また、京都大学は4名と東京大学・京都大学を合わせて5名という昨年より2少なくなりました。また、いわゆる準難関・地域拠点大学(筑波・千葉・東京都立・横浜国立・新潟・金沢・大阪公立・岡山・広島・熊本)の合格者数は21と昨年の38と比較して17減少しました。特に、近隣の岡山大学・広島大学の合格者数が14とここ数年で最も少ない数でした。模擬試験の成績の推移においてもこの学力成績の推移が少ない状況を確認していましたが、最後まで課題を克服することができました。国立大学医学部(自治医科大学を含む)の合格者数は11と昨年の14と比較して減少しましたが、2年連続で10を超える合格者数でした。さらに、私立大学の結果目を向けると、早慶上理が13(前年13)、関関同立が53(前年49)であり、全国的に新型コロナウイルスの影響で前年までに見られていた地元志向が低下し、都市部への動きが見られるようになりつつあり、本校のこの春の卒業生にもこの傾向が見られました。

新教育課程となり初めて迎える大学入試、共通テストに「情報」が加わりますが、多くの大学では配点比率は低めであり、大学個別試験での各教科の出題

範囲に大きな変化はありません。しかし、共通テストの傾向から感じられるように、知識の暗記だけではなく、読解力・思考力・判断力・表現力が求められています。ゆえに、総合的な学習や主体的な学びの環境を整えていく必要があります。また、全校生徒が一人一台端末を持つている状況となり、生徒が自主的に学べるデジタル教材の活用などICT教育の推進も求められています。さらには、高校卒業後の進路について、目の合格だけでなく、将来の進路を見据えた学びができるような大学・学部選びが重要になっていきます。これらのことを踏まえ、教員自身も新しい教育課程や入試制度に対応できるよう自己研鑽に努め、生徒の学力の伸長を図りつつ生徒一人ひとりに合わせた丁寧な進路指導を行っていく必要があります。

## 進路状況

令和6年度入試学校種別合格者延べ数及び就職者数(令和6年4月集計)

卒業生	令和4年3月			令和5年3月			令和6年3月		
	現	卒	計	現	卒	計	現	卒	計
国立大学	127	32	159	125	26	151	109	19	128
公立大学	39	0	39	37	5	42	23	5	28
私立大学	287	69	356	222	45	267	226	48	274
短期大学	8	0	8	13	1	14	6	0	6
専門学校	13	1	14	4	0	4	3	0	3
就職	0	0	0	1	0	1	0	0	0
合計	474	102	576	402	77	479	367	72	439
クラス数	7クラス			7クラス			7クラス		

## 編集後記

盛夏を迎え、双松会の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私は4年前に北高を卒業し、今年度からは教員という立場に戻ってきましたが、自分が生徒だった頃から様々な点で変化しており驚きました。まず、体操服が機能的なものに変わっていました。女子の制服もスカートとパンツの二種類から選択できるようになっており、生徒の自由な選択が尊重されていると感じます。また、総合的な探究の時間のテーマも広くなり、自分のやりたいことを研究できるようになったことも、生徒の自主的な学びに繋がっていると思います。

私は北高で日々多くのことを学ばせてもらっています。北高が時代の変化によって柔軟に変化したように、私も自分の固定観念にとらわれず、受容的な態度で学び続けたいです。今後も、生徒たちが「北高に入学して良かった」と感じられるように、日々の教育活動を精一杯頑張ります。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿を執筆いただきました皆様、誠にありがとうございます。そして、すべての双松会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。(事務局)